

令和3年 6月 25日

報道機関 各位

## 第24回「人文知」コレギウム 「文献から見る日本の文学と歴史」

富山大学人文学部は、学部教員による研究会「人文知」コレギウムを定期的を開催しております。「コレギウム」は「仲間たちの集い」という意味です。富山県の「人文知」の拠点として、人文研究のさらなる高みを目指して、様々な分野の教員が集い、相互に研究交流を図ります。

令和3年6月30日（水）に開催の第24回では「文献から見る日本の文学と歴史」をテーマに、以下の研究発表を行います。詳細は、別添チラシをご参照ください。

なお、本研究会は、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のためオンラインでの開催となります。一般の方々や学生の聴講も可能です。多くの方々のご参加をお待ちしております。

つきましては、取材・報道方よろしくお取り計らい願います。

記

日時：令和3年6月30日(水) 13時30分～15時30分

開催：オンライン開催（Zoom） 定員290名 ※事前登録が必要です。

発表：藤井史果（日本文学・講師）

「嚙本における表記・表現の特質」

長村祥知（日本史・講師）

「〈承久の乱〉の歴史像」

以上

【本件に関する問い合わせ先】

富山大学 人社系総務課（人文担当）

TEL. 076-445-6131

# 第24回「人文知」コレギウム 文献からみる日本の文学と歴史

2021年6月30日（水）13:30～15:30

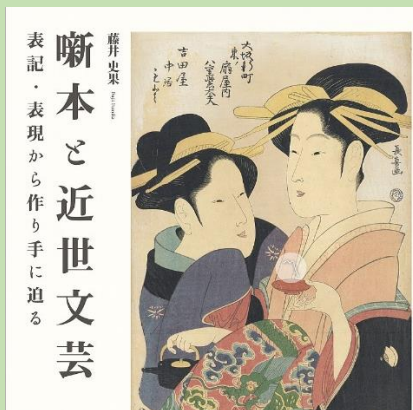
藤井史果（日本文学・講師）

長村祥知（日本史・講師）

## 噺本における 表記・表現の特質

13:30～14:30

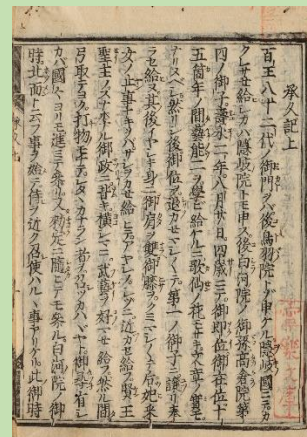
噺本は「笑い」を主題とし、近世初頭から幕末にいたるまで盛衰を繰り返しながらも途絶えることなく編まれ続けた文芸である。少なくとも1200～1300種（総話数は5～6万）近くあるとされる噺本だが、短編笑話集という性質から、改作や再録も多く、また作り手についても不明な点が多い。そこで本発表では、謎につつまれた噺本の作り手たちの「編集意識」に着目し、従来看過されることの多かった表記・表現の観点から噺本という文芸の特質について検討する。



## 〈承久の乱〉の歴史像

14:30～15:30

〈承久の乱〉の歴史像 今から800年前の承久3年（1221）、後鳥羽院が鎌倉幕府の執権北条義時の追討を命じるも、合戦に敗れ、隠岐国に流された。この〈承久の乱〉は、日本史上の重要な画期でありながら、同時代史料が少ないこともあって、なお未解明な点も多い。後世の編纂物である『吾妻鏡』や軍記物語『承久記』が描く事件像をそのまま受け取るのではなく、この事件がどのようにして起こり、後世にどのような事件として説明されてきたのかを考えたい。



（京都府立京都学・歴史館デジタルアーカイブより）

## オンライン Zoom 開催（要事前申込）

下記 URL または QR コードからお申し込みください。

[https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLScf9xoD6w39mQiHU\\_x5Avrun5E35ZM5VYp\\_LkSgr68GOHk5wQwg/viewform?usp=sf\\_link](https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLScf9xoD6w39mQiHU_x5Avrun5E35ZM5VYp_LkSgr68GOHk5wQwg/viewform?usp=sf_link)

申込締切後、登録されたメールアドレスに詳細をお送りします。メールアドレスに誤りがあると案内をお送りすることができませんので、ご注意ください。前日までに連絡がない場合は、下記総務課にお問い合わせください。

申込締切：2021年6月27日（日）

聴講は無料です。学生・一般の方の聴講を歓迎いたします。

お問い合わせ 富山大学人文学部総務課（人文担当） jinbuns@adm.u-toyama.ac.jp

